

6 市内小中学校における望ましい適正化基準

市内小中学校の望ましい適正化基準（1学級あたりの児童生徒数及び1学年あたりの学級数）については、平成29年5月に定めた「基本的な考え方」に掲載する3つの考え方を基本としながら検討し、南相馬市における望ましい適正規模及び適正配置について、次のとおり定めます。

基本的な考え方

- (1) 児童生徒の教育環境を最優先に考えた適正規模及び配置
- (2) 保護者や地域住民の意見への配慮
- (3) 小高区復興の促進

(1) 望ましい適正規模

市内小中学校の適正な規模は、中間報告を踏まえ、1学級あたりの児童生徒数及び1学年あたりの学級数（特別支援学級を除く。以下同様。）を基準とし、次のとおりとします。

◆ 1学級あたりの児童生徒数

小学校	21～25人
中学校	26～30人

◆ 1学年あたりの学級数（1学校あたりの学級数）

小学校	2学級から3学級（12学級から18学級）
中学校	2学級から4学級（6学級から12学級）

（参考）上記条件による1学校あたりの学校規模（児童生徒数）

小学校 252～450人 中学校 156～360人

(2) 望ましい適正配置

市内小中学校の適正な配置は、適正な通学距離並びに自転車やスクールバスを利用する場合の通学所要時間は、国の基準と同様に次のとおりとします。なお、本市は398km²と広大な面積を有しており、全ての地域を同一の基準で考えることが適切ではない場合があることから、平成18年の合併前の市町である3つの地域（小高区・鹿島区・原町区）に分けて、市内小中学校の適正化について検討を進めており、本計画もこの考えに基づいて策定しています。

区分	通学距離	通学時間
小学校	概ね4km以内	概ね1時間以内
中学校	概ね6km以内	概ね1時間以内